

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成26年1月16日(2014.1.16)

【公開番号】特開2012-93632(P2012-93632A)

【公開日】平成24年5月17日(2012.5.17)

【年通号数】公開・登録公報2012-019

【出願番号】特願2010-242320(P2010-242320)

【国際特許分類】

G 10 K 15/04 (2006.01)

G 10 H 1/00 (2006.01)

【F I】

G 10 K 15/04 302D

G 10 H 1/00 101C

【手続補正書】

【提出日】平成25年11月21日(2013.11.21)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項1】

楽曲の楽音を示す第1音響信号の特徴量を第1単位区間に順次に生成する第1特徴抽出手段と、

楽曲に関連する情報を時系列に指定する制御情報で指定される当該情報の時系列に同期する楽音を示す第2音響信号の特徴量を第2単位区間に順次に生成する第2特徴抽出手段と、

前記第1音響信号を再生する再生制御手段と、

前記第1単位区間と前記第2単位区間との組合せ毎に算定されて前記特徴量の類否を示す類否指標値に応じて、前記第1単位区間と前記第2単位区間との対応を示す同期解析情報を、前記第1音響信号の再生の進行とともに順次に生成する同期解析手段と、

前記第1音響信号の再生と前記制御情報の処理とが相互に同期するように前記同期解析情報に応じて前記制御情報を順次に処理する情報処理手段と

を具備する音響処理装置。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

本発明の音響処理装置は、楽曲の楽音を示す第1音響信号(例えば音響信号SA)の特徴量を第1単位区間(例えば単位区間FA[m])毎に順次に生成する第1特徴抽出手段(例えば第1特徴抽出部62)と、楽曲に関連する情報を時系列に指定する制御情報で指定される当該情報の時系列に同期する楽音を示す第2音響信号(例えば音響信号SB)の特徴量を第2単位区間(例えば単位区間FB[n])毎に順次に生成する第2特徴抽出手段(例えば第2特徴抽出部64)と、第1音響信号を再生する再生制御手段(例えば再生制御部44)と、第1単位区間と第2単位区間との組合せ毎に算定されて特徴量の類否を示す類否指標値(例えば類否指標値C[m,n])に応じて、第1単位区間と第2単位区間との対応を示す同期解析情報を、第1音響信号の再生の進行とともに順次に生成する同期解析手段(

例えば同期解析部 6 6 )と、第 1 音響信号の再生と制御情報の処理とが相互に同期するよう同期解析情報に応じて制御情報を順次に処理する情報処理手段( 例えば情報処理部 5 8 )とを具備する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 4】

以上の各態様に係る音響処理装置は、音響の処理に専用される D S P (Digital Signal Processor)などのハードウェア(電子回路)によって実現されるほか、C P U (Central Processing Unit)などの汎用の演算処理装置とプログラムとの協働によっても実現される。本発明に係るプログラムは、コンピュータに、楽曲の楽音を示す第 1 音響信号の特徴量を第 1 単位区間に順次に生成する第 1 特徴抽出処理と、楽曲に関連する情報を時系列に指定する制御情報で指定される当該情報の時系列に同期する楽音を示す第 2 音響信号の特徴量を第 2 単位区間に順次に生成する第 2 特徴抽出処理と、第 1 音響信号を再生する再生制御処理と、第 1 単位区間と第 2 単位区間との組合せ毎に算定されて特徴量の類否を示す類否指標値に応じて、第 1 单位区間と第 2 单位区間との対応を示す同期解析情報を、第 1 音響信号の再生の進行とともに順次に生成する同期解析処理と、第 1 音響信号の再生と制御情報の処理とが相互に同期するように同期解析情報に応じて制御情報を順次に処理する情報処理とを実行させる。以上のプログラムによれば、本発明に係る音響処理装置と同様の作用および効果が奏される。本発明のプログラムは、コンピュータが読取可能な記録媒体に格納された形態で利用者に提供されてコンピュータにインストールされるほか、通信網を介した配信の形態でサーバ装置から提供されてコンピュータにインストールされる。